

令和3(2021)年度

事業報告書

2021年4月1日～2022年3月31日

一般財団法人 日本サイクルスポーツセンター

概 要

新型コロナウイルスの感染拡大により1年延期となった2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会は、多くの会場が無観客開催となる中、伊豆会場で予定されていたオリンピックのマウンテンバイク競技、トラック競技は、人数の制限はあったものの、有観客で実施することができ、多くの自転車競技ファンを魅了した。

一方、本センターの運営にとって、新型コロナウイルスと開催の1年延期によるダメージは予想以上に大きく、新規施設の導入や場内施設設備の補修整備に時間を要し、3月初旬に予定していた一般営業の再開は、3月18日にずれ込む結果となった。

営業再開後については、オリンピック・パラリンピックレガシーや3年振りの営業といった話題性も手伝って、一定程度の入場者を確保できているものの、今後における新型コロナウイルスの感染拡大や社会情勢の変化等によっては予断を許さない状況にある。

本年度に実施した主な事業は、次のとおりである。

- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会への協力（機運醸成、環境整備、大会運営、飲食及び宿泊提供サービス業務受託ほか）
- 一般営業の再開（体制確立、既存施設整備、新規施設導入、誘客促進ほか）
- 「自転車トレーニングヴィジ構想」に関する検討
- 開場50年の足跡の取りまとめ
- 施設設備の健全維持（5キロサーキット走路及びフェンス、400メートルピスト走路ほか）

なお、事業の実施に際し、自転車競技の普及促進及び競技力の向上に資する事業（アジアサイクリングセンターの運営）、自転車・モーターサイクル競技施設の補修事業（5キロサーキットの補修整備、400メートルピストの走路補修整備）については、公益財団法人JKAから公益事業振興資金の補助を受けた。

1. 入場者及び施設利用者

本年度はオリンピック・パラリンピックの準備、開催及び大会後の撤去整備に伴い、2月末日まで組織委員会の管轄下にあったことから、この間はパターゴルフコースのみの営業（ロックダウン期間を除く）を続け、3月から一部施設の貸切利用、同月18日から全施設の一般営業を再開した。

[4月 1日～ 2月28日] パターゴルフコース一般営業

除外期間 : 7月10日～8月28日 <ロックダウン期間>
営業内容 : パターゴルフコースのみを提供
営業日数 : 238日（うち雨天日数50日）
有料入場者数 : 1,843人（ 8人/日）
総入場者数 : 2,876人（ 12人/日）

[3月 1日～ 3月 17日] パターゴルフコース一般営業／一部施設貸切営業
営業内容 : パターゴルフコースを提供、5キロサーキット及び伊豆MTBコースを貸切提供

営業日数 : 14日(うち雨天日数1日)

有料入場者数 : 264人(19人/日)

総入場者数 : 1,603人(115人/日)

[3月 18日～ 3月 31日] 通常営業

営業内容 : 全営業施設を提供

営業日数 : 14日(うち雨天日数3日)

有料入場者数 : 12,391人(885人/日)

総入場者数 : 12,581人(899人/日)

なお、詳細は、(別表1-1)月別入場者、(別表1-2)入場者内訳及び(別表1-3)施設利用者内訳のとおりである。

2. サイクルスポーツ施設の運営等に関する事業

(1) 各種施設の提供

2020大会の競技会場となった伊豆MTBコースや伊豆ベロドロームを始め、5キロサーキット、室内フットサル場、DAYキャンプ場等の自転車競技施設・屋内スポーツ施設・野外活動施設を約3年振りに一般に提供するなど、サイクルスポーツを中心とする生涯スポーツの普及活動を再開した。

なお、耐震強度不足が指摘されている体育館、オリンピックコース造成のために撤去された既存MTBコース及びBMXコースについては廃止することとした。

(2) 各種施設の補修整備

各施設及び設備の機能回復と安全対策のため、次のとおり補修整備を実施した。

ア. 5キロサーキット

クラックや損傷の著しい走路部分の舗装改修並びに緩衝機能が低下したフェンスの取替を行い、安全対策を実施した。

[内 容] 走路補修 : 切削・オーバーレイ 5,400㎡

フェンス補修 : 緩衝フェンス 42m

イ. 400メートルピスト

経年劣化により部分的な補修での対応が困難な状態であることから、走路全体の整備を実施した。

[内 容] 走路補修 : ウォークトップ 6,208㎡

ウ. 伊豆MTBコース

オリンピックコースの一部を一般開放するにあたり、コントロールタワーから利用者の走行状況が確認できるよう、遠方監視装置を新規に設置した。

[内 容] 遠方監視装置 : 監視カメラ 5台、メディアコンバーター 6台

(3) その他の事業

組織委員会を始めとする関係機関とも調整を図り、オリンピック・パラリンピック両ナショナルチームの競技力強化とコンディション保持のため、自転車競技施設及びトレーニング施設を貸与した。

3. 自転車競技並びにサイクルスポーツの普及奨励

(1) アジアサイクリングセンター（CCC修善寺）の運営

ア. トレーニングキャンプ

本年度は、国内トレーニングキャンプと海外トレーニングキャンプをそれぞれ1回開催する計画であったが、新型コロナウイルスのパンデミックのため、海外トレーニングキャンプは中止、国内トレーニングキャンプは、日本国内在住の自転車競技者のみを対象に開催した。

[国内トレーニングキャンプ]

開催期間：令和3年12月24日～12月29日 <6日間>

参加者：日本人選手13名（13歳～19歳までの男子12名、女子1名）

イ. WCCとのオンラインミーティング

WCC（ワールド・サイクリング・センター）本部とCCC修善寺（コンチネンタル・サイクリング・センター修善寺）の運営に関し、オンラインミーティングを実施した。

[第1回ミーティング]

・日時：令和3年 8月23日 15:40～17:00

・出席者：WCC 3名、CCC修善寺 3名

・議題：各提出データフォーマットの統一について
今後複数年にわたる事業計画について
各情報の共有化について

[第2回ミーティング]

・日時：令和3年12月13日 18:00～19:30

・出席者：WCC 4名、CCC修善寺 3名

・議題：各提出データフォーマットの統一について
今後複数年にわたる事業計画について
各情報の共有化について

(2) 自転車競技大会及び合宿の開催と受入れ

ア. 自転車競技大会

4月には組織委員会の主催で、2020年東京オリンピック・トラック競技のテストイベントとなる「READY STEADY TOKYO-CYCLING (TRACK)」が開催されるとともに、7月～8月には1年延期された東京オリンピック・パラリンピック競技大会が本番を迎え、伊豆MTBコース及び伊豆ベロドロームの会場所有者として大会組織委員会に協力した。

この他、オリンピック・パラリンピック競技大会の受入れに伴い、伊豆ベロドロ-

ム・5キロサーキットを始め、自転車競技大会の会場となる施設の使用が大幅に制限されたものの、組織委員会とも調整のうえ、12月には伊豆ベロドロームにおいて日本自転車競技連盟が主催する「全日本自転車競技選手権大会トラック（エリート・パラサイクリング）」、3月には静岡県が主催する「MTBトレーニングウィーク」の受入れを行った。

なお、静岡県が計画していたMTB競技の国際大会「ジャパン・マウンテンバイク・カップ」並びに営業再開後に本センターが予定していた、「CSC クリテリウム」及び「Challenge The Izu Velodrome」については、新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置等の関係で開催を見送った。

[主催大会]

該当なし（前年度：0件）

[他団体の大会]

開催件数：5件（前年度12件）

なお、詳細は、(別表2) 自転車競技大会一覧のとおりである。

イ. 自転車競技合宿

自転車競技合宿についても、大会と同様に施設の使用が大幅に制限されたことにより、大学や高等学校の自転車競技部等、延べ11件143名（前年度42件649名）の受入れとなった。

なお、オリンピック及びパラリンピックのナショナルチームのトレーニングに関しては、組織委員会と調整のうえ、最大限の受入れ体制を整えた。

(3) 伊豆サイクルスポーツクラブの運営

本年度は、オリンピック・パラリンピック期間中である7月及び8月、非常事態宣言が静岡県に発令されていた9月を除く各月に、400メートルピストや333メートルピストにおいて練習を行った。

同クラブは、性別、年齢、目的及び自転車競技経験の有無を問わず、トップ競技者を目指す者のほか、キッズクラスからマスターズ世代に至るまで幅広い層を対象にするもので、当クラブからは、現在のナショナルチームメンバーに加え、ワールドカップでのメダリストも輩出している。

・実施期間：令和3年4月～令和4年3月（令和4年7月～9月は中止）

・実施回数：24回（雨天中止2回、新型コロナウイルス関連中止3回）

(4) 自転車スクールの開催

自転車愛好者の底辺拡大を図るため、営業再開後に本センター主催による自転車に乗れない女性を対象にした1泊2日の乗り方教室、小学生を対象にした日帰りの乗り方教室をそれぞれ1回予定したが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、国内での蔓延防止や安全確保の観点から開催を中止とした。

なお、立川市からの要請を受け、同市主催の小学生を対象にした日帰りの乗り方教室に、指導員の派遣及び自転車の貸出を行った。

・実施日：令和3年11月6日

- ・開催地：立川競輪場
- ・参加者：小学生20名

(5) 自転車競技者に対する指導業務

神奈川県自転車競技連盟からの要請を受け、本センターで行われた同連盟主催の合宿期間中に自転車競技者に必要なウェイトトレーニングの技術指導を行った。

- ・開催日：令和4年3月29日
- ・開催地：日本サイクルスポーツセンター ウェイトトレーニング場

(6) 自転車競技の地域普及啓発活動

静岡県立伊豆総合高等学校の体育科目選択授業の場として400メートルピストを提供し、トラック競技の技術指導に関する協力を行ったほか、三島市が主催する「みしまジュニアスポーツアカデミー事業」に関しては、第6期生（令和3年4月）及び第7期生（令和4年3月～4月）に対する自転車競技の指導業務を受託した。

また、公益財団法人JKAより助成を受け、「科学的手法に基づく自転車競技者のタレント発掘及び底辺拡大事業」を推進し、近隣高校の様々なスポーツクラブに所属している生徒を対象に専用機材及びソフトを用いて身体能力の測定・分析を実施した。

このほか、伊豆市が主催する「ランニングバイク出前教室」に本センター職員を派遣し、指導協力を行うとともに、自転車競技と触れ合う機会を設け、伊豆地域における自転車競技の普及啓発に努めた。

なお、詳細は、(別表2) 自転車競技体験プログラム一覧のとおりである。

(7) ナショナルトレーニングセンター（NTC）競技別強化拠点の機能強化

オリンピック・パラリンピック競技におけるNTC自転車競技強化拠点施設として、スポーツ庁との委託契約に基づき、ナショナルチームの強化やジュニア競技者の計画的な育成を行うための施設の専有利用及びトレーニング施設の競技環境の向上並びに情報ネットワークの構築等、競技力向上のための各種サポートや機能強化事業を行った。なお、本事業の実施にあたっては、スポーツ庁からの指導に基づき、医科学の協力及び地域振興の観点から、JKA（日本競輪選手養成所）や地元行政の静岡県、伊豆市ともコンソーシアムを形成して対応した。

その結果、オリンピック競技のナショナルチームにおいては、トラック競技で銀メダル1つ、パラリンピック競技のナショナルチームにおいてはロード競技で2つの金メダルを獲得するなど、トレーニングの成果が証明された。

4. サイクルスポーツに必要な自転車等に関する研究

これまで、サイクリングコースの一般営業期間については、レンタサイクルとして配備した各種市販自転車の利用後の評価に関するアンケート調査を実施してきたが、本年度については、営業再開が年度末に近い3月18日で一般営業期間が僅か14日間であったため、満足なデータを収集することができなかった。

5. サイクルスポーツ施設に付帯する施設等の運営に関する事業

(1) 各種施設の提供

オリンピック・パラリンピックの受入れ及び会場の撤去整備に伴い、営業再開に至るまでの間は、場外に位置するパターゴルフコースのみの営業を行った。

3月18日の一般営業再開後は、新型コロナウイルスの感染拡大防止に最大限配慮しつつ、ファミリーサーキット、おもしろ自転車、サイクルモノレール等の自転車関連施設及び新規のサイクル立体迷路、サイクルコースター、スカイローラー等の遊戯的施設等を3年振りに一般へ提供した。

なお、老朽化の著しい流水プール、サイクル UFO 及びオリンピック開催に伴い撤去されたストライダーパークについては廃止を決定した。

(2) 広報及び誘致活動

約3年振りの営業再開となることから、顧客の呼び戻しと新規施設・オリンピックレガシー施設の告知案内を目的として、静岡県内を中心に、テレビ・新聞・インターネット等を媒体とする大規模な PR を実施した。

パブリシティに関しては、主にオリンピック、自転車競技の地域普及啓発活動及び営業再開関連において、様々な媒体で紹介いただいた。

なお、詳細は、(別表3) 広報宣伝活動内容一覧のとおりである。

(3) その他の事業

新型コロナウイルスの感染防止を図るため、3月に計画していた集客イベントは中止とした。一方、大会撤去工事終了後の3月に5キロサーキットを活用した貸切イベントを受入れ、収入の確保に努めた。

6. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会への協力(機運醸成、環境整備、大会運営、飲食及び宿泊提供サービス業務受託ほか)

当初計画から1年延期となった2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会については、新型コロナウイルスの影響により、多く会場は無観客で開催されたものの、伊豆会場は有観客で大きな混乱もなく開催された。本センターは会場所有者として、機運醸成、環境整備、大会運営等に積極的な協力を行った。

また、組織委員会から、アスリート・競技役員・オリンピック及びパラリンピックファミリー・ワークホース・報道関係者等への飲食提供サービス業務を一手に受託したほか、サイクルを競技ボランティア用の宿泊施設として貸切提供した。

なお、主なスケジュールは、以下のとおり実施された。

5月31日	伊豆会場バンプ・イン開始	…	機器搬入
6月25日	伊豆会場ムーブ・イン開始	…	スタッフ会場入り
7月10日	伊豆会場ロックダウン開始	…	会場警備セット
7月23日	第32回オリンピック競技大会(2020/東京)開幕		
7月26日～27日	オリンピック MTB 競技開催		
8月 2日～ 8日	オリンピック自転車トラック競技開催		
8月 8日	第32回オリンピック競技大会(2020/東京)閉幕		

8月24日	東京2020パラリンピック競技大会開幕
8月25日～28日	パラリンピック自転車トラック競技開催
8月28日	伊豆会場ロックダウン解除
8月29日	伊豆会場ムーブ・アウト開始 伊豆会場バンプ・アウト開始
9月5日	東京2020パラリンピック競技大会閉幕

7. 一般営業の再開（体制確立、既存施設整備、新規施設の導入、誘客促進ほか）

令和元年5月以来約3年の休業期間を経て、令和4年3月18日に一般営業の再開を果たし、その後の入場者も順調に推移している。

営業再開にあたっては、コンパクトで機能的な組織への転換を図るため4部5課制から2部4課制への改正、財源確保のみならずお客様目線にも配慮した料金システムの改正、既存施設の安全性・快適性確保と景観整備、伊豆MTBコースの一般開放及びサイクル立体迷路の導入を行うとともに、集中的な広告宣伝を展開し、誘客促進に努めた。

8. 「自転車トレーニングヴィレッジ構想」に関する検討

静岡県が主催する「東京オリンピック・パラリンピック自転車競技レガシー推進委員会」から、今後は本センターを、エリート選手から初心者までが利用できる自転車トレーニングヴィレッジとして利活用すべきとの提案を受けたことから、オリンピック・パラリンピックレガシーの創出と地域の活性化を念頭に置き、静岡県や自転車関係団体と協調して、サイクルスポーツの聖地実現に向けた利活用促進体制としてスポーツコミッション機能等の調査・検討を開始した。

9. 開場50年の足跡の取りまとめ

昭和46（1971）年8月の営業開始以来、本年8月11日で開場50周年を迎えたことを機会に、半世紀の歩みや入場及び施設利用に関するデータの整理を行った。しかし、50年間の蓄積データは膨大で、より詳細の確認が必要な事項も存在することから、一部については令和4年度も引き続き作業を行うものとする。

10. その他

（1）地域行政等との連携

ア. 伊豆市事業への協力

“伊豆をサイクルスポーツ・サイクルレジャーのメッカに！”を合言葉に、伊豆市と自転車関係団体とが「自転車と伊豆」推進協議会を組織し、そのメンバーとして伊豆市の活性化に向けた取り組みに協力するとともに、伊豆市自転車まちづくり協議会にも参画し、「伊豆市自転車まちづくり基本計画（自転車活用推進計画）【改訂版】」の作成にも協力した。

また、前述のとおり、伊豆市が主催する、こども園等の園児を対象にした「ストライ

ダー出前教室」を始め、地元市民の自転車競技に対する熱をより一層高めるよう自転車普及イベントへの協力も行った。

イ. 静岡県事業への協力

静岡県が主催する「東京オリンピック・パラリンピック自転車競技静岡県開催推進委員会」、「静岡県サイクルスポーツの聖地創造会議」、「日本サイクルスポーツセンター自転車トレーニングヴィレッジ実現に向けた検討会議」、「ジャパン・マウンテンバイク・カップ実行委員会」等へ参画したほか、地域経済の発展を目的に、地元企業と行政とが組織する「静岡県東部地域スポーツ産業振興協議会（通称：E-spo）」のメンバーとしても、スポーツと宿泊・観光を組み合わせた新しいサービスや商品の開発等に関する検討に加わった。

また、3月開催予定であった「ジャパン・マウンテンバイク・カップ」の代替イベントとして開催した「静岡サイクルフェスタ（MTBトレーニングウィーク及びレガシーイベント）」の受入れを行った。

(2) 職員研修及び各種資格取得の奨励・支援

職員研修の一環として、静岡県内で開催された、オリンピック・パラリンピック自転車競技のチケットを配布し職員に観戦させることで、自転車競技に対する理解を深めるとともに、今後の施設運営の参考とした。

このほか、近年、空撮や上空からの点検など様々な分野での活用が期待されているドローン（無人航空機）の操縦方法取得のため講習会を関係職員に受講させた。

なお、その詳細は、(別表4) 職員研修内容一覧のとおりである。

(3) 新型コロナウイルス感染防止への対応

コロナ禍での営業再開となったことから、来場者にはマスクの着用や消毒液による手指消毒、ソーシャルディスタンスの徹底をお願いし、感染防止に努めた。従業員に対しては、会報等により、手洗いやうがいを励行するほか、マスクや携帯用消毒スプレーの支給、体温チェック、三密の機会排除等の対策を施して、感染の防止と健康維持に努めるとともに、6月～7月にかけて、オリンピック・パラリンピック会場従事者として、新型コロナウイルスワクチン接種を伊豆市の協力のもとで実施した。

また、食事を提供するレストラン及び売店については、来場者に安心と信頼を提供することを目的に「ふじのくに安全・安心認証（飲食店）制度」を取得し、感染症予防対策が万全であることをアピールした。

(4) 災害復旧工事の実施

令和3年9月の豪雨による5キロサーキット秀峰亭先の崩落被害箇所について、法面盛土復旧工事を行った。

(被害状況) 斜面上部の5キロサーキット走路から幅10m 長さ40mにわたって斜面が崩れた。

(復旧工事) 着手：令和3年12月1日、竣工：令和4年2月22日

(5) その他

公益財団法人JK Aが主催する「250競走（ケイリン）講習会」の開催に協力した

ほか、理事会・評議員会を始めとする諸会議の開催、OA機器のシステム管理、車両の運行管理、地震・消防総合訓練などの業務を必要に応じて行った。

なお、その詳細は、(別表4)職員研修内容一覧及び(別表5)諸会議開催内容一覧のとおりである。